



# ジューシー！フルーティー！ 大事に育てて 今年もお届けします！

この時期、毎年楽しみな果物「産直もも」。福島県福島市のふくしま未来農業協同組合（JAふくしま未来）を訪ねて、約30年桃を育てる生産者に、もも栽培について話を聞きました。



## 組合員の皆さんが 召し上がる頃に

鼻を近づけるとほわんと甘い香り  
で、口に入れるとみずみずしく  
ジュリッな「産直もも」。この季節  
の楽しみな果物の一つです。生産者  
の一人であるJAふくしま未来（福  
島県福島市）福島地区もも専門部会  
部会長の金子清高さんの畑を訪ね  
て、話を聞きました。金子さんは桃  
を育てて29年、家族4人でさくらん

## やるべきときに やるべきことを

桃の栽培は、冬から春先まで続く  
木の剪定（樹勢管理）から、摘果、  
3度の摘果、その間にやる防除や  
新梢管理、7月から9月にかけての  
収穫、その後翌年に向けた新梢管理  
と続きます。  
新梢管理では、混み合った枝を切る  
ことで太陽がよく当たり、通気性・作  
業性を良くします。実にたっぷり養分

ばりんごも栽培する果樹農家です。  
1ヘクタールの広さの畑で、約  
150本の桃の木を育てています。  
「糖度が高く、果肉がしっかりとし  
て食感の良い桃を目指して栽培して  
います。目標糖度は12度以上。ちょ  
うど良い熟度で収穫して、組合員の  
皆さんが召し上がる頃に一番おいし  
いが理想です。食べたときに果汁  
が口に広がる状態でお届けできたら  
うれしいですね」とにこやかに話す  
金子さん。  
金子さんの畑がある地域は盆地  
で、夏は湿度の高い暑さで、冬は雪  
が積もる寒さ。その寒暖差が桃の栽  
培に適しているのではないかといい  
ます。

## 産直 もも 栽培の流れ

### 1 剪定

1月3月上旬頃に少しずつ  
樹勢を管理します。前年の収穫  
後に伸びて混み合っている枝  
を、収穫までにどのくらい枝が  
伸びるのか、また果実がなるこ  
枝が重みで下がることも計算に  
入れながら剪定し、木々の間に  
風が通り光が入るようにし、作  
業がしやすい形にします。

### 2 摘果

3月上旬〜4月上旬の芽が  
出る時期、花が咲く前に蕾の7  
割を取り除きます。木に貯蔵されて  
いる養分を、実にする分だけに  
届ける調整です。花が咲き始  
め、その年の満開になる日を算  
出したら、合わせて次の作業の  
日程が決まります。例年4月19  
日頃が満開の日ですが、今年は  
4月5日に満開になりました。

### 3 3度の摘果

摘果には5月頃に始まる予備  
摘果（果実が小さいうちに実を  
選んで残し、それ以外を落とす）  
と、6月上旬頃の仕上げ摘果  
（成長具合を見ながらさらに実  
を減らし調整していく）、収穫  
の2週間前の修正摘果（変形  
・傷がついている実が出てき  
たらそれを落とす）があります。  
甘い作物のため、虫は必ずつ  
くし、病気にもなります。それ  
を防ぐために10日おきに木の  
防除も行います。そしてこの間  
やけに伸びる枝を剪定（新梢管  
理）します。また、葉が美しくつ

### 4 収穫・選果・出荷

7月中旬〜9月上旬が収穫  
の時期。枝の先端の実から熟し  
ていくため、実の1つ1つ付け  
根の地色（緑から黄色になっ  
ていくか）を見て「今日はここま  
で取る」と判断しながら収穫  
します。かごを背負って脚立に  
上り、桃を片手全体で包むよう  
に持ち、もう片方の手で枝を挿  
すことで実が枝から離れ、実  
に負担をかけずに収穫できます。  
桃は何回も触らない、かごに入  
れすぎない、かごを運ぶときに  
も極力体から離し揺れを与え  
ないようにします。

畑での選果は金子さんの母・  
喜子さんの役目。収穫したその  
場で、傷・あざがあるものは規  
格外として、規格別に分けてか  
ら出荷します。そして、収穫が  
終わると9月頃から次の年に  
向けて新梢管理が始まります。



(写真右)  
金子清高さん。金子さんは昨年  
3月から、もも専門部会の部会  
長を務めています  
(写真左)  
花が散った後、順調に実がでて  
いるかを確認しています



## 今回ご紹介した商品はこちら！

### 産直 もも

宅配：  
9月2回まで毎週取り扱う予定です  
※福島県産のほか、青森県・秋田県・  
山形県・長野県・新潟県などからも  
お届けする予定です

店舗：  
全店で取り扱う予定です  
※福島県産の産直ももが中心ですが、  
産直ももでない場合もあります



やさしく傷付けないように収穫しています

が届くように、蕾の7割は落としてし  
まいます。そこからさらに実を選び、  
伸び続ける枝を相手に継続した管理  
で、太陽が当たるようにしたり、虫か  
ら守ったりしながら迎える収穫。桃を  
傷つけないように収穫は慎重に、家族  
以外の人には任せません。  
金子さんが一番大切にしているこ  
とは、その時期にやらなくてはなら  
ない作業をきっちりやること。  
「自分で責任がとれるものだけを出  
荷したいという気持ちでやっています。  
だから、食べた方に「おいしい」つ  
て言われたら本当にうれしいです。  
自信を持ってお送りしています」と  
金子さんはいいます。

おすすめの食べ方を聞いてみる  
と、「水で洗って手で産毛を落とし、  
皮ごとくし形に切って食べるのが  
私は好きです。皮のザラザラ感  
は高く、皮と実の間が糖度・香りが  
高くて一番おいしいところなんで  
すよ」と満面の笑顔で教えてくれま  
した。今年の桃、皆さんはどのよう  
に食べたいですか？ ぜひお手に  
取ってみてください。

